徳島県におけるニカメイチュウおよびサンカメイチュウの発生傾向について

以西信夫・山下定利

最近におけるニカメイチュウおよびサンカメイチュウの発生被害はどのようになっているか，これらの実体を把握しその原因を摘出することは極めて困難な問題ではあるが，毎年継続実施しておる発生予察資料に基きこれらの傾向を概観することは対策樹立の上からも非常に重要と思われるので，こゝにその調査結果を報告する。

Ⅰ　資料の吟味

ニカメイガ，サンカメイガの誘殺数は県下各観察所の合計値で，昭和26年度の誘殺数を100として年次変動を求めた。

被害調査は県下の水田から140筆を無作為抽出して総茎数，被害茎数，被害茎率を算出した。ニカメイチュウの第1化期被害調査は県南地帯7月25日～8月5日，県北地帯8月1日～10日の間に，第2化期は収穫期にそれぞれ調査を行った。また，サンカメイチュウ第2化期は8月20日～25日の間に，第3化期は収穫期に調査した。

Ⅱ　ニカメイガの発生概況

ニカメイガの誘殺数年次変動は第1，2図に示すとおりで第1化期は昭和28年を，第2化期は27年の誘殺数を最高にして以来多少の変動はみられるが漸次減少している。被害茎の年次変動は第3，4図に示すとおりで第1化期の被害は27，28年を最高にして以来次第に低くなっている。

第2化期は27年を最高に32年に向って減少の傾向であり33年以来再び上昇し，誘殺傾向と逆な関係がみられた。

これらの原因については解析することがむつかしいが巡回調査結果から早期栽培の普及にともなってその周辺地帯の普通栽培稲や窒素質肥料の多施用田に被害が目立って多くなっていることは事実である。また，早期栽培の混存しているところでは発蛾最盛日の確認がむつかしく，適期防除がなされていないうらみがある。

昭和27年の第2化期被害は板野郡応神で82%，小松島市立江町では収穫皆無に近い水田が多く，県下の平均被害茎率12.7%に達した。幼虫の棲息密度は異常に高く踏込温床から幼虫が這出して，ビニールや白菜を喰害し大被害を与えた。このため翌春第1化期は発生量が多かった上に，発蛾最盛日がおくれ悪い条件が重なったゝめに本田での被害は激甚を極め，被害茎率が50%に達した水田が県下の各所でみられた。

この時，ホリドールが広面積に散布されて驚異的な防除効果をあげた。

昭和27年度の第1化期誘殺数の比率が200に対して，被害茎率が6.7%と高い茎率をみたのは発蛾最盛日が極端におくれたゝめに田植後の発生量が多くなった。板野郡応神村，板野町栄，阿南市見能林，領家では18～42%に達する被害を受けた。

Ⅲ　サンカメイガの発生概況

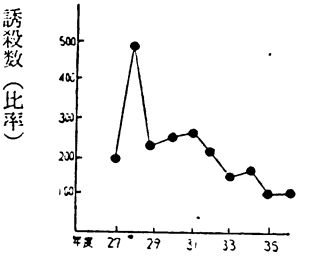
サンカメイガの誘殺数年次変動は第5，6，7図のとおりで，昭和27，28年以来多少の変動はみられるが漸次低下しておる。しかし，35年度より各化期を通じて上昇の傾向がある。

第2化期，第3化期の被害茎率の年次変動は第8，9図のとおりである。

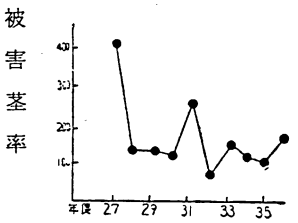
27～28年の被害茎率は0.3～0.7%で以来0.03～0.1%と漸次低下しているが，36年度の被害茎率は高く，第2化期0.2%，第3化期で0.4%に達している。

29年以来サンカメイチュウの被害は少なく，防除の必要性を認めない程度になっていた。しかし，昨年度より麻植郡山川町，川島町を中心とした地帯に発生量，被害ともに急増し，今後はこれらの被害が県下に拡大される可能性が多分にあり充分警戒を要する。

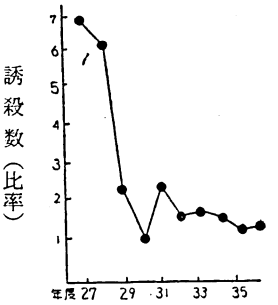
第1図　ニカメイチュウ第1化期
誘殺数年次変動図



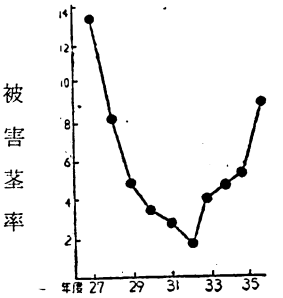
第2図　ニカメイチュウ第2化期誘殺数年次変動



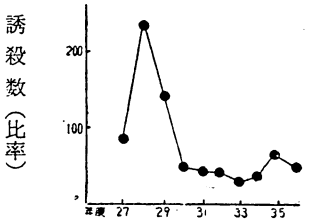
第3図　ニカメイチュウ第1化期被害茎率年次変動



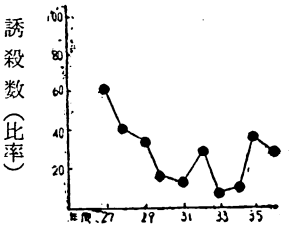
第4図　ニカメイチュウ第2化期被害茎率年次変動



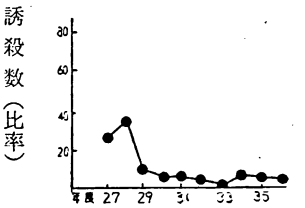
第5図　サンカメイチュウ第1化期誘殺数の年次変動



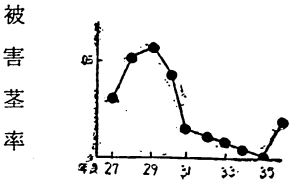
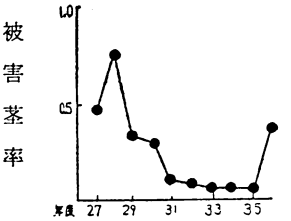
第6図　サンカメイチュウ第2化期誘殺数の年次変動



第7図　サンカメイチュウ第3化期誘殺数の年次変動



第8図　サンカメイチュウ第2化期被害茎率の年次変動



第9図　サンカメイチュウ第3化期被害茎率の年次変動